

平成 31 年 2 月 6 日
リサイクル燃料貯蔵株式会社

リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

1. 新規制基準適合性審査の状況について

これまでの主な審査項目の進捗状況は、下表のとおりです。

施設関係に関しては、津波評価方針のうち津波防護方針等への指摘事項（解析に用いているパラメータの考え方や妥当性の整理）について、平成 30 年 11 月 20 日の審査会合で回答・説明を行いました。その結果、当社からの回答・説明に対して、「貯蔵建屋が受ける水圧が、水深係数 1.5 に基づく 10.5m の静水圧であることの妥当性を整理して説明すること」の指摘がなされ、継続審議となりました。

地震等関係に関しては、平成 30 年 9 月 14 日の審査会合における火山影響評価の追加の指摘事項（恐山の活動に関する説明の充実）について、平成 30 年 11 月 30 日の審査会合で回答・説明を行いました。その結果、当社からの回答・説明に対し妥当な検討が行われたものと評価されるとともに、地震等関係については、審査会合において今後審議すべき論点がないことが確認されました。この確認が得られたことから、地震等関係については、これまでの審議内容を反映し、事業変更許可申請書の一部補正を平成 31 年 1 月 29 日に提出しました。

審査区分	これまでに確認された項目	今後の確認項目
施設関係	<ul style="list-style-type: none"> ○設計基準関係（「基本的安全機能【臨界防止、遮蔽、閉じ込め、除熱】」「損傷の防止【火災、竜巻等】等」） ○耐震設計の基本方針 ○津波評価方針のうち、津波防護方針等（漂流物による影響、浸水による影響、浸水対策） 	<ul style="list-style-type: none"> ○津波評価方針のうち、津波防護方針等の審査会合（4/26, 9/21, 11/20）での指摘事項「水圧による荷重の考え方、水圧による影響」への回答・説明
地震等関係	<ul style="list-style-type: none"> ○火山影響評価 ○地質・地質構造 ○地震動、基準地震動、基準地震動の年超過確率、基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価 ○津波評価方針のうち、仮想的大規模津波の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○審査会合での審議は終了

2. リサイクル燃料備蓄センターの事業開始時期の見直しについて

リサイクル燃料備蓄センターの事業開始時期の見直し（平成30年12月21日に県、むつ市に報告及び当社ホームページにて公表）を踏まえ、平成31年1月10日付けで「リサイクル燃料備蓄センター使用済燃料貯蔵事業変更許可申請書」（平成26年1月15日申請、平成27年1月30日一部補正、平成27年3月6日一部補正、平成28年2月8日一部補正および平成28年9月16日一部補正）に係る一部補正、ならびに使用済燃料貯蔵施設の貯蔵計画の変更に係る届出を原子力規制委員会に提出いたしました。

○事業変更許可申請書の一部補正の主な内容

- ・「五、使用済燃料貯蔵施設の工事計画」

2019年度下期に「追加工事の開始」を追記

事業開始を「平成30年後半」から「2021年度*」に変更

*設計及び工事の方法の変更の認可を取得して追加工事を開始する時に、法第四十三条の七第二項に定める工事計画の変更の届出を行う。

○貯蔵計画の変更届出

- ・平成30年1月30日に届出を行った貯蔵計画の変更

（具体的変更内容）

平成30年度 1基 → 2018年度 0基

平成31年度 5基 → 2019年度 0基

平成32年度 8基 → 2020年度 0基

3. 「リサイクル燃料備蓄センター廃止措置実施方針」の公表について

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定に基づき、リサイクル燃料備蓄センター廃止措置実施方針を平成30年12月26日に公表しました。

詳細については、当社ホームページから確認することができます。

(<http://www.rfSCO.co.jp/>)

以 上